

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	① 漢字や語句など基礎的な学力の定着と言語活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 日常的に学習者用端末を活用する授業の推進 【ICT機器の活用】	① 令和7年度学力調査の結果は、「基礎」「応用」ともに全国平均を上回り、「目標値」も概ね達成できている。しかし「情報の扱い方」「交流会について話し合う」の分野ではポイントが低い傾向が見られた。一方、令和7年度 i-check による調査結果では、友達と交流したり自分の思いを伝えたりすることが苦手だと感じる児童も一定数存在している。 ② ノートへの書字活動に抵抗感を示す児童が、学習者用端末での書字活動に対し、意欲的に取り組む傾向がある。また分からない漢字や語句があると自分から調べるプロセスを行わず諦めてしまったり大人に聞いたりする傾向も見られる。まず自分で考えて、分からなければ調べることを定着することが必要がある。	① 分からない語句や漢字があった際に自分で調べる習慣を身に付けるため、反復的に基礎的なプリントに取り組むとともに語句調べなどで自力解決を促す。また話し合い活動の場面に授業に取り入れ、意見を伝えたり他人の意見に触れたりする機会を設ける。学期ごとの振り返りで学力80%、できている80%を目指す。 ② 導入やまとめに学習者用端末を活用することで児童の書くことや授業に参加することへの苦手意識を低減する。ノートと学習者用端末の使用頻度のバランスは教師側が意識しつつ、児童が活用できる環境を整えることで、書く活動に対する意欲につなげていく。活用法を提示することですすんで調べる意識を高める。
社会	① 問題解決的な単元構成を意識した授業展開の推進 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT機器を活用した資料提示や振り返り活動の推進 【ICT機器の活用】	① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して、「とてもそう思う」と答えた児童が6割以上いる一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」「分からない」などの否定的な回答をしている児童が1割程度いた。 ② 教科書を用いた資料提示だと、どこを見たらよいか分からない児童がいるが、学習者用端末を用いて資料配布することで意欲的に資料を見る児童が増える傾向にある。また、資料の気付きなどを共有することで自分の考えをもてたり、まとめの活動に意欲がもてたりする児童がいる。	① 「つかむ」→「調べる」→「まとめる」→「つなぐ」という単元構成を意識し、児童が主体的に学習課題をもって調べられるようにする。特に、導入では、児童の興味関心を高められるような資料提示を工夫し、自身の考えをもつ、伝え合う、深める、次への課題をもつ活動を繰り返し行い、意欲的に参加できる授業づくりを行っていく。 ② 資料提示や資料の読み取り場面では、積極的に学習者用端末を使用する。ノートと学習者用端末の使用タイミングを教師側が意識しつつ、導入での資料提示や振り返り・まとめの活動などにおいて、個々の児童の希望に合わせて活用できるようにする。
算数	① 算数の基礎的・基本的な学習内容の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT機器を用いた学習活動の充実 【ICT機器の活用】	① 東京ベーシック・ドリル算数3年診断シートAにおいて、正答数7割以上の児童の割合が4月実施で46%、6月実施で60%となっている。 ② 一人1台端末の活用については、授業の終末の振り返りに関して学習支援アプリに記録することを主として活用してきた。また、課題が終わった児童が、スマイルドリルでの学習を進めるなど活用した。	① 指導法工夫改善授業加配教員を活用した習熟度別指導を継続し、習熟度の低い児童の少人数グループを中心とした指導において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容を振り返る時間を確保する。診断シートBおよびCの実施で、正答数7割以上の児童が75%を上回ることを目指す。 ② 今後は、問題把握の場面や図形、数直線など手で視覚的に確認しながら演算決定や立式の支援となるよう、学習を進めることで解決に向かえるように活用していく。
理科	① 問題解決の過程を通して、資質・能力の習得 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実 【ICT機器の活用】	① 1学期の児童の様子からは、実験に意欲的に取り組む姿が多く見られた。予想や、分かったことを自分なりに表現しようとする児童が多いが、一方で、自分の言葉で表現することが難しい児童もまだ多く、限られた児童が発言を繰り返す場面もある。 ② 学習支援アプリを使いこなす児童が多い。夜空の星の動き方の確認や雨の日の水たまりの様子の記録など課題の把握や、結果の記録に活用している。振り返りに活用していくことが課題である。	① 今後も実験などの予想・話し合いの場面で友達の考えに触れたり、意見を交流したりする活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。また、一斉指導時に自己の考えを具体的な言葉を使用し書いた児童を意図的に指名し、表現のよさを価値付ける。学期末の振り返りで定着80%を目指す。 ② 学習端末の各種アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現しものを共有し、対話する場面を設ける。それによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。振り返りにも端末を活用していく。
音楽	① 学ぶ楽しさを実感できる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的】	① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が89.5%である、3年生時から比較する	① 共通事項をもとに指導内容を焦点化し、常時活動や、体を動かす活動を通して経験し、友達と関わり合って表現することで、主体

	<p>で深い学びのある授業】</p> <p>② 興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】</p>	<p>と、1.5 ポイント減少しているが、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して否定的な回答をした児童は3年生時より2.6ポイント増、人数で3名増加している。自分の旋律だけでなく、相手の旋律や伴奏を聴いて表現することや、音楽のよさを言葉で表現することに難しさを感じていることが考えられる。特に器楽の技能の習熟に関して、引き続き一人一人の学習過程に応じた支援を充実させることで、すすんで学習する意欲を維持させるようにする。</p>	<p>的に活動できるようにする。</p> <p>② ICT 機器を活用して、自分に合ったパートや楽譜を選択し、スマートフォンステップで学習に取り組むことができるようにする。また、鑑賞で気付いたことや感じ取ったことを伝える手段は、音楽の共通語を増やししながら、絵や色、図形楽譜などを認め、ワークシートでも端末でも、児童の得意な方法で表現できるようにする。</p>
図画 工作	<p>① 学ぶ楽しさを実感できる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童の割合が96%であった。この事からほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考え。児童同士の効果的な対話を促す工夫が必要である。</p>	<p>① 材料や用具、詩自体、表し方などを複数提示するなどをして、児童が自分の思いに合わせて自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行う。今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答を96%以上得られるようにする。</p> <p>② 互いの作品を鑑賞したり、共同して製作したりする活動では、どのような点に注目したり留意したりして関わり合うのかを提示し、対話するだけに留まらず、学びを深めていけるようにする。題材末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
体育	<p>① 運動を通して自分の課題を見付けられるようにする環境設定 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 課題解決の方法を知ったり選んだりするための学習者用端末の活用 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が95%であり、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が95%であり豊かなスポーツライフの実現に向けて、授業での「できた」喜びを通して一層運動に親しめるようにすることが必要である。</p>	<p>① 知識や技能に関わらず運動に親しみやすい規則の設定、系統的・段階的に自分の力に合わせて選択できる<u>技や活動の提示</u>をすることで、課題を見付けられるようにする。</p> <p>② 学習者用端末を活用し、運動のポイントを映像や言葉でいつでも参照できるようにすることで、自分に合った課題解決の方法を選んだり試したりすることができるようにする。アンケートでの「とてもそう思う」の回答の増加を目指す。</p>
外国語 活動	<p>① 学ぶ楽しさを実感できる、音声でのやり取り中心の授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が93%であり、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が93%である。残りの7%の児童が意欲的に授業に参加できるような状態にすることが課題である。</p>	<p>① 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、実際に自分のことを伝え、相手のことを知るという体験を繰り返し、音声で外国語のやり取りが成立するという達成感を味わえるようにする。</p> <p>② 児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT 機器で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする。</p>
道徳	<p>① ねらいとする内容項目にせまるための課題設定・発問の工夫。自己を理解するための発問の工夫 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② ICT 機器を用いた教材理解、お互いの考えの違いに触れたり交流したりするための活用 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① ほとんどの児童が自分の考えや振り返りを書くことはできるが、多面的・多角的に考えたり、自己を見つめ、振り返ったりするという点においては深めていく必要がある。</p> <p>② 教材に出てくる登場人物の関係や状況を理解し、自分ごととして考えたり、友達との交流によって自分の考えを広げたり違いを認め合ったりしていくことが課題である。</p>	<p>① 教材について児童が感じたことや考えたことをもとに多面的・多角的な考えを引き出すような発問を工夫する。また、児童から出た多様な考えを分かりやすく整理し、発問を吟味することによって自己を深く見つめることができるようにする。</p> <p>② 導入で ICT 機器を活用して教材を提示し、教材への興味・関心を高め、本時の道徳的価値について自分ごととして考えられるようにする。また、児童が入力した個々の考えを全体で共有したり、交流の際に使用したりすることで多様な考えに触れられるようにする。</p>